



新しく「先生」になるみなさんへ

Get ready!

～信頼関係づくり・授業準備・指導技術～

新任教員のための学級担任ガイド（小学校）

What's up? 【授業準備版】

岡山教育事務所
津山教育事務所
岡山県総合教育センター

令和7年2月

この冊子は、『What's up?』新任教員のための学級担任ガイド（小学校）の授業準備版として作成しました。

初めて小学校の教壇に立つ先生方が抱きやすい不安や悩みを踏まえ、授業をする前の「信頼関係づくり」「授業準備」「指導技術」について、その心構えや留意点などをまとめました。

この冊子が新任の先生方の支えとなり、授業づくりのはじめの一歩として、参考になることを願っています。

授業の基盤となる「信頼関係」づくり

授業で子どもがやる気を持続させ、学習を充実したものにするために基盤となるのが、教師と子どもとの「信頼関係」、子ども相互のよりよい「人間関係」です。



学級担任として、普段の学校生活の中で、どのように人間関係をつくっていけばよいのでしょうか。

教師と子どもの「信頼関係」づくり

小学校の段階でも、学級担任と子どもとの「信頼関係」の有無によって、授業の様相が大きく変わります。まずは、子ども一人一人を深く理解し、子どものよさや頑張りを多面的に認めようとする「教師の姿勢」をもって子どもに関わりましょう。

また、「教育は人なり」と言われるように、最大の教育環境は私たち教師です。いつも明るく、表情豊かに子どもたちと接するとともに、子どもの人権を尊重し、適切な言動に努めましょう。

授業では、疑問やつまずきに寄り添いながら丁寧に対応したり、授業の始業や終業の時刻を守ったりするなど、子どもたちに誠実に関わっていくようにしましょう。



一緒に遊べば、共通の体験を通して、子どもの思いを受け止め、子どもの新たなよさを発見することもできます。教師と子どもが心を通い合わせるような体験や活動も大切にしたいものです。



子ども相互のよりよい「人間関係」づくり

普段の学校生活で子どもたち同士が温かい人間関係を築いていけるように、学級担任が意図的に個や集団に働きかけていきましょう。

- (例)
- ☐ 個に応じた言葉かけをする。【自己存在感】
 - ☐ 子どもたちを具体的にほめて、認める。【自己肯定感】
 - ☐ 子ども一人一人に対して同じ距離感で接する。【安心・安全】
 - ☐ 違いを認め、尊重する。【自尊感情】
 - ☐ 助け合い、支え合う集団づくりに努める。【共感的な人間関係】

授業の準備はどうしたらいいの？

小学校では、学級担任になると一人で多くの教科等の授業をすることになります。



授業をする前に、どのような準備をしておけばよいのですか。

まずは、教科書や指導書等で、教科等ごとの指導内容や、単元の学習の流れを概観してみましょう。単元のゴールや目指す姿が明確になってきたら、指導計画（週案）を立て、見通しをもって授業づくりを始めましょう。



一日の授業がいつも5～6時間あります。一時間ごとの授業を短時間で計画するためにはどうしたらよいのですか。

授業の「めあて」と「まとめ」、中心となる活動などをイメージして授業を簡潔に「見える化」（板書計画等）するとよいですね。



先輩の先生方は、どのように授業の準備をしているのでしょうか。つぎの実例を参考に、自分に合うやり方を見つけていきましょう。

【かんたんに】板書計画で 授業をデザインする

算数

板書計画

Handwritten lesson plan for "Fractions" (算数) titled "Boarding Plan" (板書計画). The plan is organized into sections: "Start" (めあて), "Main Activity" (本時の流れ (活動)), and "Summary" (まとめ). The "Start" section includes a goal: "Understand the relationship between the number of parts and the multiplier." (1つの数を何かに考えて かけ算の じを つくろう。). The "Main Activity" section is divided into three parts: (i) Understanding the relationship between the number of parts and the multiplier (1つの数を何かに考えて かけ算の じを つくろう。), (ii) Understanding the relationship between the multiplier and the number of parts (かけ算の じを 何かに考えて 1つの数を つくろう。), and (iii) Understanding the relationship between the multiplier and the number of parts (かけ算の じを 何かに考えて 1つの数を つくろう。). The "Summary" section includes a recap of the main activity and a final goal: "Understand the relationship between the number of parts and the multiplier." (1つの数を何かに考えて かけ算の じを つくろう。). The plan also includes a "Review" (ふり振り返り) section at the end.

社会

板書計画

3/4 3. 情報を生かす わたしたち

(火)

めあて

① 情報と生活の関わりを矢張り
ルールやマナーについて考えよう!!

② 情報との関わり (インターネット
スマホ、PC)

③

④

Youtube
Abema, fulu 動画

SNS
(tiktok, FB, Line
etc.)

ゲーム

クローン
(調べ学習, など)

買い物, 支払い
コース

Wifi?

3/4 3. 情報と生活の関わり

インターネット
ショッピング

80%以上

2,000-

"生活に深く関わっている"

まとめ

発問

① インターネットの問題

SNSで
個人情報流出

犯罪

いじめ
ハラスメント

オンラインゲーム
課金
ゲーム依存
トラブル

インターネット ショッピング

トラブル

発問

②

「ああ、どうすればいい!？」

→ 先生、
パパ、
ママ、
友達

風景

「全体的に情報を信じない
個人情報も流出する (自分人)」

「他者のことを考えよう! 結局コレ!」

まとめ

「情報を上手に活用するためには、
ルールやマナーを守ることが大切!」

【かんたんに】 活動を中心に 授業をデザインする

体育

前時の流れ (活動)

7/2 水泳 5回目

(金)

1. 1分30秒、ストレッチ、体操、シャワー

2. 水泳

① 足、手、頭、胸、腹

② キック ③ ホッピング ④ キック

3. めあての確認

めあて

「息つき」を 7回繰り返す

「すず」は 1分30秒の時間!

①

「すず」の
時間

「肩甲骨、肘、(両足前後) + 前腕の
→ 下腕を水泳の姿勢! → 7回の繰り返し
(手と足を伸ばす!)

②

肩甲骨、
肘、前腕

③ クロール

本時の流れ (活動)

7/2 (金) 水泳 6回目

1. 1分30秒、ストレッチ、体操、シャワー

2. 水泳

① 頭、胸、腹

② キック、ホッピング、ストレッチ

3. めあての確認

→ キック

→ ストローク

「ストローク」(両足前後)

「息つき」

めあて

「コンビネーション (30秒)」

30秒

キック

ストローク

「コンビネーション」で30秒

キック アップ コンビネーション

キック アップ コンビネーション

【くわしく】 深い教材研究から 授業をデザインする

本時の流れ（活動や思考）

價值項目

ワークシート

ライバルは自分自身

- ① Q1: あなたは、今、将来の夢や目標がありますか。 ある ・ まだない
Q2: 将来の夢や目標のために、努力をしていますか。 はい ・ いいえ
Q3: Q2で「はい」と答えた人は、どんなことをしていますか?

発言の想定

- ② **め** 夢や目標を実現するために、何が必要なのだろう? **努力、あきらめない、**
夢を叶えるための行動

記入の想定

- ③ 記入の想定
- 学校の先生に下りたかった。(夢)
- ↓
- 視力の低下
⑤ がたてられた
- 新しい目標
鍼灸マッサージ師
+
ゴルフととの
出会い
- 写真
- ゴルフボール
・歩く練習(運動が苦手)
・節々トレーニング
・重く練習(見え方...)
+
仕事とトレーニングの両立
・休みなし
・やめた
- 努力を重ね乗り越えた!
- ロンドン・パラリンピック
金メダル

発言の想定

- 4 写真

- ⑤★今日の勉強をふり返ろう！

4

基本的な指導技術を確かめよう

教材研究や授業のデザインが決まったら、いよいよ本時の授業展開です。まずは、教師の基本的な指導技術を確認して、授業に臨みましょう。

授業では、子ども一人一人の表情を確かめながら、子どもの反応や発言が受け止められるように、教師の立ち位置や視線、動線にも気を配りましょう。



板書

・授業の流れが分かり、構造的な板書になるようにしましょう。

□図、写真などを活用して分かりやすくし、文字は丁寧に板書する。

□「めあて」「子どもの考え」「まとめ」など、一連の授業の流れが分かるようにする。

□子どもの発言を板書に反映させるなど、子どもと共につくる。

発問

・子どもに問いや疑問をもたせたり、話を深めたりする発問を工夫しましょう。

□子どもたちのよいモデルとなる話し方で、ポイントを絞って話す。

□話す速さ、言葉の調子と抑揚、間の取り方、豊かな表情を意識する。

□子どもの考えを広げ深めるために問い返しやゆさぶりなどの働きかけをする。

机間指導

・机間指導で子どもを見取り、適切に助言を与えたり支援したりしましょう。

□ノートへの記入状況や課題への取組状況を把握する。

□子どものつまずきを個別に捉え、課題を再確認したり、理解を促す助言をしたりする。

□ペアやグループの話合いの状況を把握し、学びを発展させる働きかけをする。

